

## 初回面接のポイント

### 1 初回面接

初回面接も基本的には、前述した面接の基本的態度、ポイントなどに従って面接を進めますが、ここでは、相談者とケースワーカーが初めて出会う初回面接という場面で特に留意すべき4つのポイントを挙げます。

#### (1) 相談者の緊張緩和、不安の解消に努める

相談者は初めて訪れる福祉事務所という場に緊張したり、自分の相談にのってもらえるかという不安、公的機関に相談をすることへの抵抗感を抱えている状況にあります。こういった相談者の心理状態では、困っていることや生活の窮状を福祉事務所に伝えることはできなくなります。この段階では、相談者の緊張緩和や不安の解消に努めることが、的確にニーズを把握するための第一歩となります。

相談先が福祉事務所といっても、相談者が自分の窮状を初対面の人に話すことは難しく、勇気もいることです。そのため、例えば、「こんにちは。私は、福祉事務所の生活保護担当の〇〇です。福祉事務所は、皆さんが生活などに困った時に、一緒に考えたり、悩んでいることを解決できるようにお手伝いするところです。気軽にお話をして頂いて結構です。秘密も守られますので安心してください。今日はどのような相談でしょうか。」などと、ケースワーカーは、挨拶と自己紹介を行うことから始め、福祉事務所に相談に来るまでに様々な葛藤を繰り返していたであろうことの意味を相談者に伝えることで、相談者が相談しやすい雰囲気を用意して作る必要があります。

面接の導入部で、相談者を精神的に支える姿勢を示し(支持)、さらに、相談者の秘密や相談内容を他者に口外することはないこと(秘密保持)、福祉事務所は相談者の抱える問題に対して何かしらの支援を行う機関であること(機関の機能の説明)、ケースワーカーの職務上の位置付けなどを説明し、安心感を持ってもらうことが必要です。

こういった一つ一つの相談者に対する配慮を積み重ねて、相談者の緊張緩和、不安や抵抗感の解消に努めることが、面接において信頼関係を構築していくために大変重要となります。

#### (2) 相談者の話をよく聴く(傾聴面接)

面接の基本は傾聴です。相談者の話したいことを聴くことから始めます。ケースワーカーから質問や制度説明を行うばかりでは、相談者も窮状や相談したい内容を伝えることができないばかりか、理解してくれないという不信感を抱かせたり、相談に乗ってもらえなかったという絶望感を抱かせる結果となりかねません。相談者は緊張や不安を持って福祉事務所に訪れているということを理解した上で、まずは相談者が困っていることを自分の言葉で話せるようにし、ケースワーカーが相談者から信頼できる人物であると認識してもらうことが大切です。沈黙もまた相談者の一つの表現です。相談者が話し出すのを待つことも必要です。相談者が話し出すのが困難な場合は、語りかけをして話し出すのを促すようにします。さらに、相談者の話の内容を確認しながら面接を進め、相談者が表面化しない根本的な課題にも気付くようにします。

相談時間が長くなると、相談者もケースワーカーも疲労してきますので、面接全体の構成（時間配分）をイメージし、おおよそ1時間以内に収まるように心がけます。相談は傾聴を基本にしますが、相談者の述べていることが散漫になったり、いろいろな話になり、主訴がはっきりしない場合や、相談者の話の焦点がずれてきたり、話が違う方向へそれそうになった場合に、もとの流れに戻していくようにします（焦点化）。

### (3) 相談者に分かりやすい言葉で説明する

相談者は、その年齢、住んでいる地域、職業、これまでの生活歴など様々であり、その相談者の立場に立った分かりやすい言葉で話すことが必要です。とりわけ、公的機関で一般的に使われる言葉は、「お役所言葉」と揶揄されるように、一般的に馴染みがないこともあり事務的で冷たい印象を持たれがちです。

こういった言葉一つひとつで、相談者は、自分の立場を理解して説明してくれていないと受け止め、最も重要な信頼関係を築くことにマイナスとなる可能性があります。ケースワーカーは、常に面接の際に専門的で難解な言葉を用いないよう注意するとともに、相談者の立場で分かりやすい言葉を使用することを心掛けることが重要です。

（例）慣用的に使用されている略称

生保（生活保護）、国保（国民健康保険）、市住（市営住宅）、実調（実態調査）、病調（病状調査） など

さらに相談者の理解力、表現力を見極めながら、説明することが大切です。例えば、軽度の知的障害がある場合、理解されているように思えても、確認すると理解できてないということもあります。社会経験等の不足からくる理解不足もあります。面接の中でこのようなことを見極め、場合によっては、図を書いて説明するなどの工夫が必要です。

### (4) 制度の説明と申請意思の確認

面接を通じて、相談者の抱える課題が明らかになった場合には、その課題解決にどのような対応が考えられるか検討していくこととなります。

経済的に困窮している場合であっても、支援内容には、他法他施策による公的年金制度や手当等の給付サービス、社会福祉サービスの活用、ハローワークといった公的社会資源との連携、親族・友人・地域といった私的な地域資源との連絡・調整が考えられます。ケースワーカーは、相談者が抱える課題、解決する能力・意欲、社会資源の有効性等に応じて、他法他施策や社会資源の活用方法や手続について十分に説明します。

その際、他法他施策と併せて、生活保護制度の趣旨、手続き、保護の要件、扶助の種類や内容、権利義務関係などについて、パンフレットを用いるなどして誤解のないよう十分説明することが重要です。相談者は生活保護に対して正確な知識が無く、漠然としたイメージを持って来られる方が多いため、正確で丁寧な説明に心がけます。

相談者の課題解決を福祉事務所が担えない場合については、福祉事務所が対応できる業務の範囲を明らかにし、福祉事務所では対応できないことを説明するだけでなく、福祉事務所以外にどのような機関が担っているか、相談窓口はどこかについても説明することが必要です。社会資源の説明とともに、他の機関につなぐということが重要です。

この段階では経済的な困窮状態にある事実に着目し、課題解決のためにどのような制度を

活用することが相談者にとって有効なのかという視点で対応すること、「制度から生活実態を見る」というのではなく、「生活実態から制度を見て、活用する」という視点で対応することがとても重要です。

このような相談者の立場を考えた懇切丁寧な説明を行うことで、相談者も自分が抱えている課題に対してどのような制度・手当・サービスが活用できるか、その中で自分に何が相応しいかということを考え、決定することが可能になります。

また、併せて、訪問調査を始めとした調査の内容、それらの調査を行った上で保護の要件を満たす場合に保護の適用が決定されること、保護決定までの期間等、生活保護の申請から保護の決定までの流れを説明することで、相談者の不安は軽減されます。調査に対する理解を深めておくことも必要です。

また、申請意思を確認していない段階では、過去の生活歴などの立ち入ったことを無理に聴くことは差し控えます。

さらに、保護の決定までの期間の生活についても確認が必要です。相談者は生活が困窮しているからこそ、来所します。切迫している状況もありますので、決定までの生活についても確認し、必要に応じた援助が必要になります。

これらの説明を十分に行った上で、相談者の生活保護の申請の意思の確認を行うこととなります。

## 2 面接後のフォロー

生活保護の申請に至らなかった相談者についても、相談者には自立に向けた何らかの課題があると考えられることから、面接において把握した相談者の課題に対応した他法他施策や社会資源の活用がなされるよう、必要に応じ活用可能な関係機関へ同行するなどして一緒に説明を受けたり、事前に該当する窓口へ情報提供を行うといった対応も必要となります。

相談者が期待した他法他施策や社会資源を活用できなければ、課題の解決を図れず生活の目途が立たなくなる場合もあります。その場合には、遠慮せず再び相談に来所するよう、明確に伝えておく必要があります。

さらに、近い将来、生活保護や公的制度を利用しなければならなくなる可能性が高い者については、あらかじめ地域の民生委員や保健所等に相談者の生活状況について把握してもらうよう依頼するなどして、相談後の生活状況が一変するなど急な対応が必要となる場合に、すぐに福祉事務所の相談に結びつけられるような体制を整えていくことも重要となります。

## 第2節 アセスメント

## 第2節 アセスメント

### 1 アセスメントの重要性

支援対象者に対して実際に支援していくに当たっては、具体的な支援計画を策定する必要があります。支援の実効を上げるようにするためには、的確な課題分析に基づく支援計画の策定が不可欠です。この課題分析がアセスメントです。

自立支援プログラムが多数整備されたとしても、支援対象者の課題を的確に把握し、課題に応じた適切なプログラムが選択されなければ、有効な支援には結びつきません。かえって、支援対象者が自立に向かうことを遅らせたり、妨げてしまうことも考えられます。自立支援プログラムを活用し、有効な支援を行っていくためには、支援対象者の課題をいかに的確に把握するかが鍵であり、客観的な事実に基づくアセスメントが重要になります。

しかし、アセスメントを行うには、支援対象者から何を聴き、家族、関係者、関係機関からどのような情報を得るべきかなど、一定の知識と技術を必要とします。

本章で述べるアセスメントシート、プログラムシートは、これを活用することによって、共通の視点で支援対象者の課題を捉え、検討することが可能となるとともに、ケースワーカーの課題の分析能力及び対応能力を高めることが期待できます。また、アセスメントの手法、自立支援のノウハウについても福祉事務所全体で共有することが可能となり、それらをねらいとしています。

### 2 アセスメントのポイント

アセスメントを行う段階では、自立を手助けする視点から、過去や現在の生活状況や、学歴、職歴など立ち入ったことを聞いていきます。そのことを相手に伝えることが大事です。

ただし、アセスメントシートの項目にある内容は、一度にすべて把握できるわけではなく、信頼関係（ラポール）が出来なければ聞き出せないことは多くあります。したがって、このアセスメントシートは必ずしも一度に全部埋めなければならないものではありません。

アセスメントシートを全部埋めることを優先するあまり、尋問調の質問になったり、閉ざされた質問（「はい」、「いいえ」での回答）ばかり繰り返して短時間で面接を終わらせようとするのではなく、まず、相談者に安心感を与え、相談者が自らの言葉で語ることを待つことが大切です。信頼関係の構築を何よりも優先し、聴き漏らした事項は追々訪問時に聞くことでよしとする態度で、余裕を持って面接に臨みましょう。

### 3 アセスメントシート

アセスメントシートについては、29頁以下をご覧ください。まず、29頁に、アセスメントシート分類表を掲げました。一般的事項のアセスメントシートについては、30頁に基礎シート、31頁に扶養・資産シート、32頁に生活状況シート、33頁に健康管理シートとなっています。また、これらの記載要領は34～37頁、記載例は38～41頁に載せてあります。就労支援と退院支援に関しては、この一般的事項のアセスメントシートの他に、それぞれの特性を踏まえたアセスメントシートを用いて行います（71～76頁、94～99頁）。

次に一般的事項のアセスメントシートで、自立支援を行う上で活用できるアセスメント項目の各項目について、説明します。

「ク 主な扶養義務者との関係」、「ケ 保有資産の状況」、「コ 負債の状況」、「サ 日常生活の状況」、「シ 社会生活の状況」については、客観的事実の外に、支援対象者本人が、現状についてどのような認識を持ち、今後どのような生活を送りたいと考えているか、また、生活をどのように立て直そうと考えているかについて把握します。

なお、ここで掲載されているアセスメントシートについては、必ずしもこの様式を使用する必要はなく、自治体の創意工夫により適宜修正して使用していただくものです。例えば、巻末に添付している埼玉県作成のアセスメントシート様式のような構成で使用することも考えられます。

## ① 基礎シート(30頁)

### ア 世帯員の状況

世帯員全員の基礎情報を記載します。2人以上の世帯員で構成される世帯については、支援対象者以外の世帯員の健康状態や世帯員の相互関係を聴くことにより、これらが世帯の自立に向けた課題となっていないか確認します。

### イ 生活の状況

最近の生活状況は、誰が何に困っているのか、緊急性はあるかを確認し、その困っている状況が何に起因しているのか確認します。また、今まで抱えていた課題が、解決されたのか、解決されつつあるのか、解決されていないのか確認し、課題を解決するためどのような行動をとっているのか確認します。

現在抱えている課題が過去の生活状況に起因しているのであれば、それが何かを確認します。

### ウ 住宅

世帯人員に比べて狭隘でないか、歩行困難者がいる場合に外出等に支障がないかなど住環境を確認します。また、高齢者の世帯であって、土地・家屋を所有する場合は、リバースモーゲージによる資産活用が可能か確認します。賃貸住宅の場合は、家賃額が現在の生活を圧迫している要因になっていないか確認します。

### エ 就労状況

働いている場合は、就労先、仕事の内容、就労時間、雇用形態、今の仕事についての満足度や希望等について確認し、働いていない場合は、その理由を確認し、稼働能力の程度を判定する上で基礎資料とします。

### オ 健康状態

現在抱えている傷病や障害等により、就労や日常生活に支障をきたすものがあるか、就労する上で又は日常生活を送る上で留意しなければならないものがあるか確認します。

### カ 民生委員や関係機関との関わりの状況

支援対象者と、民生委員や関係機関との関わりの状況について確認します。

#### キ 他法他施策の状況

現在受給している年金、手当等の他、日常生活の維持、向上のため活用している他法他施策について確認します。また、活用していない場合は、既に活用することが可能なもの、今後活用することが可能となるものを把握しておきます。

### ② 扶養・資産シート(31頁)

#### ク 主な扶養義務者との関係

扶養親族との交流の内容や交流の程度を確認し、支援対象者に支援を行う際に、何らかの協力が得られる扶養義務者がいるか確認します。

また、本人が扶養義務者との関係をどのように考えており、今後どうしたいと考えているか、どのような支援を望んでいるかについて確認します。

#### ケ 保有資産の状況

保有資産の状況について確認し、活用できるものがあるかどうか確認します。

#### コ 負債の状況

電気・ガス・水道及び家賃等の支払状況を確認し、ライフラインが止まっていないか、また立ち退きを迫られていないか把握します。ローンの残高や返済状況について、債務整理の支援の必要性の有無を確認します。

また、本人の現状認識を聴き、今後の生活の立て直しの方法について、本人の考え、希望する支援内容を確認します。

### ③ 生活状況シート(32頁)

#### サ 日常生活の状況

日常生活の支援が必要か否か各項目を確認します。ただし、ある程度信頼関係ができないと書けない項目もあります。生活習慣が規則正しいか、室内状況が日常生活に支障をきたしていないか確認します。

また、日中の過ごし方については、現在の健康状態から家事ができるか、また実際に行っているか、日常生活に支障をきたしていないか確認します。

その他、2人以上の世帯員で構成される世帯については、他の世帯員の育児や介護の必要性があるか、育児や介護にストレスを感じているか、ストレスを感じている場合はその理由について確認します。

また、本人の現状認識を聴き、日常生活に支障をきたしている状況についてどう考えているか、改善したいと思っているかどうか等を確認します。

#### シ 社会生活の状況

日中の過ごし方から、定期的に出かける場所があるか、交友関係はどうか、近隣住民との関係はどうかについて確認し、社会生活の状況について把握します。

また、本人の現状認識を聴き、どのような支援を望んでいるか確認します。

#### ④ 健康管理シート(33頁)

##### ス 疾病の状況

特に生活上の課題となっている疾病について、本人の自覚症状や現在の治療状況などを、「オ 健康状態」よりも詳細に把握します。

また、本人の現状認識を聴き、どのような支援を望んでいるか確認します。

##### セ 入院時の状況

特に、長期入院中の者など、退院した場合にその後の生活に課題があると思われる者を対象に、入院時の状況、入院前の生活状況及び過去の入院歴について把握します。

また、本人の現状認識を聴き、どのような支援を望んでいるか確認します。

#### ※ アセスメントとは？

アセスメントは、従来、事前評価、初期評価などと訳されてきました。現在では、アセスメントは、初期段階だけでなく、支援対象者の状況の変化に合わせて、繰り返し、継続的に行うことから、アセスメントという言葉をもそのまま用語として用いることが多くなっています。

アセスメントは、従来の伝統的なケースワークの理論において、「診断」と言われていた過程です。「診断」は、対象者の持つ問題点を発見し、その原因を究明しつつ、援助者主導で援助を行う流れの中にある段階でした。自立支援のプロセスでは、生活課題の解決は、支援対象者の主体性を尊重し、できるだけ支援対象者自身が行うことが望ましいものと考えられています。アセスメントは、支援対象者の希望を尊重し、支援対象者にできること、支援対象者の持つ良い点や支援対象者の持つ力を大切にしていく視点を含んだ概念になっています。

#### ※ 生活保護の受給要件を確認するための調査

生活保護には、「困窮の程度に応じ、必要な保護を行い、その最低限度の生活を保障する」という目的がありますので、生活保護の相談・申請に訪れた方に対して、保護の受給要件を確認し可否を判定するための調査も行う必要があります。

本手引きで取り上げた自立支援のためのアセスメントと一体的に、こうした調査も行うことが、生活保護の相談援助過程における特徴でもあります。このため、アセスメントシートには、保有資産などの調査の項目も含めています。



## アセスメントシート分類表

様式番号	シート名	内容	使用目的			ページ
			一般支援	就労支援	退院支援	
様式1	一般的事項 (基礎シート)	氏名、住所、世帯構成、生活状況、住宅・収入状況、就労状況、健康状態等	◎	○	○	30
様式2	一般的事項 (扶養・資産シート)	扶養義務者、保有資産、負債の状況	○	△		31
様式3	一般的事項 (生活状況シート)	日常生活の状況、社会生活の状況	○		○	32
様式4	一般的事項 (健康管理シート)	健康状態、入院時の状況	○	△	◎	33
様式5	就労支援 (基礎シート)	最終学歴、職歴、健康状態(就労条件)、就労意欲の判断、就労のイメージ・希望、CWの見立て		◎		71
様式6	就労支援 (支援検討シート)	現在の求職方法、現在の支援方法、次期支援計画策定のポイント		◎		72
様式7	退院支援 (基礎シート)	医療機関名、入院時の保証人、現在の病状、院内での行動、本人の希望・意思、CWの見立て、親族の希望・意思・支援の可否、退院支援に活用できる資源等、CWの見立て			◎	94
様式8	退院支援 (支援検討シート)	退院後の生活支援上の課題、現在の支援方法、次期支援計画策定のポイント			◎	95

様式〇	シートの追加は適宜可能
-----	-------------

支援目的ごとの活用頻度	◎ 必須 ○ 使用頻度は高い △ 必要に応じて活用
-------------	---------------------------------

一般的事項のアセスメントシート < 基礎シート No. >

平成〇年〇月〇日現在 記入者

氏名	性別 男・女	生年月日 平成 年 月 日 ( 歳 )	担当者				
住所	県 市 町 丁目 - ○○アパート 号		電話 ( ) -				
			携帯電話 ( ) -				
世帯類型	高齢・母子・障害・傷病・その他	保護開始年月日 年 月 日 (過去の保護受給歴 )	介護・育児を要する世帯員の有無	無・有			
世帯員の状況	続柄	氏名	性別	生年月日(年齢)	職業・学校等	健康状態	特記事項(世帯員の相互関係等)
生活の状況	生活状況	最近の					
	過去の生活状況						
住宅	持ち家	家屋・土地の別	名義人	持ち分	抵当権	面積	固定資産税評価額
		家屋 宅地					
	賃貸	家賃額	契約期間		家賃以外の支払い		
		円	年 月 日 ~ 年 月 日	共益費・管理費等 ( 円 )			
		契約保証人		住環境 課題なし・課題あり( )			
収入状況	収入の種類	月額金額(円)	収入(予定)日	内訳等の詳細			
	稼働収入						
	他法他施策収入						
	その他の収入						
就労状況	就労の有無	働いていない ( 年 月 日から ) ・ 働いている (現在の仕事は 年 月 日から)					
	就労先	管内・管外 ( 市 ) / 通勤方法 ( 電車・バス・自転車・その他 [ ] )					
	就労時間	: ~ : まで / 1日 時間、週 日、月 日勤務 / 日勤・夜勤・交代勤務					
	雇用形態	正社員・嘱託・パート・アルバイト・派遣・その他 ( )					
	社会保険等	なし・健康保険・厚生年金・雇用保険・その他 ( )					
	仕事の内容						
特技・資格等							
仕事をしていない理由							
健康状態	状況	入院 ・ 在宅					
	治療の有無	未治療 ・ 現在、治療中断中( 年 月頃から ) ・ 現在、治療中( 年 月頃から )					
	未治療、治療中断の場合の理由						
	項目	内容	就労、日常生活で支障がある点、留意する点(本人の訴え及び医師意見等による)				
	傷病	主な病名 医療機関 服薬の状況 自宅からの通院時間					
	障害等	障害者手帳 介護認定					
民生委員との関わりの状況	無:有(民生委員名: )	関わりの状況: ( )					
関係機関との関わりの状況	無:有(関係機関・担当者等 ( ) )						
策他法他状況	種類						
	内容						
備考							

一般基礎シート No.

一般的事項のアセスメントシート << 扶養・資産シート No. >>

平成〇年〇月〇日～〇年〇月〇日現在 記入者

主な扶養義務者との関係	関係性	氏名	続柄	交流の内容	交流の程度		
	交流有			・面会をする(定期・不定期) ・電話で話す(定期・不定期) ・仕送り状況(無・定期・不定期)	交流頻度(1週間に 仕送り内容(月平均 その他の支援(	回・1カ月に 円	回・1年間に 食料品 日常生活用品)
	交流無			交流が途絶えた時期 ( 年前から)	原因		
				交流が途絶えた時期 ( 年前から)	原因		
	本人の現状認識と将来の展望等						
	支援が必要な点・支援上の留意点						
保有資産の状況	手持ち金		なし・ある( 円) ※調査時点:				
	預貯金		なし・ある( 円) ※調査時点:				
	生命保険	契約内容	保険社名( ), 契約者( ), 被保険者( ), 受取人( ) / 契約なし				
		保険の種類					
		保障内容	死亡、高度障害 万円、入院給付金 1日 円、通院給付金 1日 円、その他( )				
		月額保険料 解約返戻金	なし(既に全納)・あり( 円) 円 ※調査時点:				
	山林、農地等 (居宅以外の不動産)		なし・あり / 名目 , 面積 坪・㎡、固定資産税評価額 円)				
その他資産							
支援が必要な点・支援上の留意点							
負債の状況	電気・ガス・水道	未納の公共料金 なし・電気・ガス・上下水道	供給停止 なし・電気・ガス・水道	未納、供給停止の状況 月分から未納 / 月から供給停止			
	家賃・地代	支払い状況 立ち退き予定 立ち退き後の行き先	未納・完納 なし・あり なし・あり	月分家賃から未納 年 月 日まで			
	ローン等の返済	借入先 借入金残高 返済状況 借入原因					
	自己破産	債務整理ができない理由 法定手続きの状況 過去の自己破産歴 過去の自己破産の原因					
	年金担保の状況	なし・現在ある(借入額 円、返済完了予定 年 月)・過去にあった(借入額 円)					
	本人の現状認識と将来展望等						
	支援が必要な点・支援上の留意点						

一般扶養・資産シート No.

一般的事項のアセスメントシート ≪ 生活状況シート No. ≫

平成〇年〇月〇日～〇年〇月〇日現在 記入者

日常生活の状況	生活習慣	項目	出勤日		休日		
		起床時間 食事 家事 帰宅時間 就寝時間					
	室内状況	室内全体の整理整頓					
		台所 その他					
	日中の過ごし方	家事	項目	健康状態からの判断	自分でしているか	誰かにしてもらっているか	生活に支障がある点
			洗濯	できる・できない	している・していない	はい( )・いいえ	
			掃除	できる・できない	している・していない	はい( )・いいえ	
			料理	できる・できない	している・していない	はい( )・いいえ	
			買い物	できる・できない	している・していない	はい( )・いいえ	
		他の世帯員の育児、介護	必要性の有無		項目	育児・介護の程度	
必要ない・必要がある			移動				
			食事				
			排泄				
			入浴				
		着脱衣					
ストレスを感じていない・感じている		理由					
生活費のやり繰り		できている・できていない	理由				
アルコール・薬物依存等		課題なし・課題あり	状況				
本人の現状認識と将来展望							
支援が必要な点・支援上の留意点							
社会生活の状況	日中の過ごし方	定期的に出かける場所がある	地域の公共施設 その他				
		交友関係	一緒に出かける友人がいる 連絡を取り合う友人がいる				
		近隣住民との関係	地域の行事への参加 会話 挨拶する頻度 トラブルなど				
	本人の現状認識と将来展望						
	支援が必要な点・支援上の留意点						

一般生活状況シート No.

一般的事項アセスメントシート << 健康管理シート No. >>

平成〇年〇月〇日～〇年〇月〇日現在 記入者

健康状態	対象者の意識	健康上の不安なし 健康上の不安・課題あり( )	CW見立て	健康上の課題なし 健康上の課題あり( )	
	現在治療中の病気	無 ・ 有	病名	通院頻度 週、月 回 ・ 不定期	
通院医療機関	病院 ・ 医院 ・ 診療所 ( ) 科)			通院頻度 週、月 回 ・ 不定期	
自覚症状	具体的な症状				
	対象者の認識	就労することに問題ない ・ 就労はできるが職種、勤務時間等で制限される ・ 就労できない 就労することに制限がある場合は、その理由			
主治医の意見	病名	(担当医師: ) 病院 ・ 医院 ・ 診療所 (Dr)			
	通院頻度	週、月 回 ・ 不定期 ・ 薬の処方 ・ 経過観察 ・ 現在通院していない			
	現在の治療	症状・治療内容			
		処方している薬の内容・服薬回数			
		今後の治療期間・治癒の見込			
主治医から見た対象者の病気・症状に対する理解	受療中の態度				
本人の現状認識と将来展望	理解している ・ 病気を過小に理解している ・ 病気を過大に理解している ・ その他 ( )				
支援が必要な点・支援上の留意点					
入院時の病状(現在)	入院までの経緯	年 月 頃			
		年 月 頃			
		年 月 頃			
	入院の原因	病状が悪化( <input type="checkbox"/> 通院が中断又は不規則 <input type="checkbox"/> 服薬が中断又は不規則 <input type="checkbox"/> 居宅生活でのトラブル <input type="checkbox"/> その他 ( ) ) その他( )			
入院時の症状及び状況					
入院前の生活状況	住宅の種類	持ち家・賃貸	家賃額	契約期間	
	同居人の有無	世帯人数	世帯員	親族	
		人	人	その他	
	親族の支援	支援していた親族	続柄	氏名	続柄
支援の内容					
その他の支援者					
過去の入院歴	発症日	初診日	受診医療機関		
	前回	医療機関名	入院期間	年 月 日～ 年 月 日	入院形態
		入院時の症状及び状況	措置 ・ 医療保護 ・ 任意		
		入院直前の生活状況			
	それ以前	退院時の症状及び退院先			
		特記事項			
医療機関名		入院期間	年 月 日～ 年 月 日	入院形態	
入院時の症状及び状況	措置 ・ 医療保護 ・ 任意				
入院直前の生活状況					
退院時の症状及び退院先					
特記事項					
本人の現状認識と将来展望					
支援が必要な点・支援上の留意点					

一般健康管理シート No.

一般的事項のアセスメントシート < 基礎シート 記載要領 >

平成〇年〇月〇日現在 記入者

氏名	性別 男・女	生年月日 平成 年 月 日 ( 歳 )	担当者	
住所	県 市 町 丁目 - ○○アパート 号	電話 ( ) -	携帯電話 ( ) -	
世帯類型	高齢・母子・障害・傷病・その他	保護開始年月日 年 月 日 (過去の保護受給歴)	介護・育児を要する世帯員の有無	無・有
世帯員の状況	続柄 氏名	性別	生年月日(年齢)	職業・学校等
				健康状態
				特記事項(世帯員の相互関係等)
生活状況	生活近況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単身世帯であれば記載は不要。</li> <li>・2人以上世帯であれば他の世帯員の基礎情報を記載。これにより、他の世帯員の状況や他の世帯員との関係が世帯の自立に向けた課題となっていないか確認する。</li> </ul>		
	過去の生活状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・教育・仕事・健康・経済状況など支援に必要な情報を記入</li> <li>・現在抱えている課題が、過去の生活状況に起因していないか確認する。</li> <li>・現在抱えている課題が、過去の生活状況に起因しているのであれば、それが何かを確認する。</li> </ul>		
住宅	持ち家	家屋・土地の別	名義人	持分
		家屋		持分
		宅地		持分
	賃貸	家賃額	契約期間	家賃以外の支払い
		家賃額が現在の生活を圧迫している要因になっていないか確認する。また、保護の程度を決定するために必要。		
		契約保証人	住環境	課題なし・課題あり( )
収入状況	収入の種類	月額金額(円)	収入(予定)日	内訳等の詳細
	稼働収入			
	他法他施策収入			
	その他の収入			
就労状況	就労の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護の要否判定に必要。</li> <li>・保護の程度を決定するために必要。</li> <li>・資産、扶養義務、他法他施策を活用しているか確認する。</li> </ul>		
	就労先			
	就労時間			
	雇用形態			
	社会保険等			
	仕事の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労していなければ仕事をしていない理由のみ記載。</li> <li>・就労している者であれば、現在の就労状況について確認する。</li> </ul>		
	特技・資格など			
	仕事をしていない理由			
健康状態	状況	入院	在宅	
	治療の有無	未治療	現在、治療中断中( 年 月頃から)	現在、治療中( 年 月頃から)
	未治療、治療中断の場合の理由			
	項目	内容	就労、日常生活で支障がある点、留意する点(本人の訴え及び医師意見等による)	
	傷病	主な病名		
		医療機関		
		服薬の状況		
		自宅からの通院時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在抱えている傷病や障害等により、就労や日常生活に支障をきたすものがあるか確認する。</li> <li>・現在抱えている傷病や障害等により、就労する上でまたは日常生活を送る上で留意しなければならないものがあるか確認する。</li> </ul>	
	障害等	障害者手帳		
		介護認定		
	民生委員との関わりの状況	民生委員との関わりの状況を記入する。		
	関係機関との関わりの状況	関係機関との関わりの有無や担当者を記入する。		
策他法他	種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収入を得るため活用している他法他施策を確認する。</li> <li>・日常生活の維持、向上のため活用している他法他施策を確認する。</li> <li>・現在活用していないが、既に活用することが可能なもの、今後活用することが可能となるものを把握する。</li> </ul>		
	内容			
備考				

一般基礎シート No.

<< 付属するアセスシート >>

一般( 扶養資産 ・ 生活状況 ・ 健康管理 ) 就労支援( 基礎 ・ 支援検討 ) 退院支援( 基礎 ・ 支援検討 )

一般的事項のアセスメントシート << 扶養・資産シート 記載要領 >>

平成〇年〇月〇日～〇年〇月〇日現在 記入者

主な扶養義務者との関係	関係性	氏名	続柄	交流の内容	交流の程度	
	交流有	扶養義務者との交流の内容や交流の程度を確認する。				
	交流無	本人に対し支援を行う際、何らかの協力を求めることができる扶養義務者の有無を確認する。				
	本人の現状認識と将来の展望等	扶養義務者との関係について本人がどのような現状認識を持ち、将来は扶養義務者に何を期待しているのか等を確認する。 通院介助や見守り等安否確認といった日常生活や精神面での援助があれば具体的に記入する。				
	支援が必要な点・支援上の留意点	支援担当者の所見などを記入する。				
保有資産の状況	手持ち金	なし・ある ( 円) ※調査時点:				
	預貯金	なし・ある ( 円) ※調査時点:				
	生命保険	契約内容	保険社名( ), 契約者( ), 被保険者( ), 受取人( ) / 契約なし			
		保険の種類				
		保障内容	死亡、高度障害 万円、入院給付金 1日 円、通院給付金 1日 円、その他( )			
		月額保険料	なし(既に全納)・あり ( 円)			
	解約返戻金	円 ※調査時点:				
山林、農地等 (居宅以外の不動産)	なし・あり / 名目 、面積 坪・㎡、固定資産税評価額 円)					
その他資産						
	支援が必要な点・支援上の留意点	支援担当者の所見などを記入する。				
負債の状況	電気・ガス・水道	未納の公共料金 なし・電気・ガス・上下水道	供給停止 なし・電気・ガス・水道	未納、供給停止の状況 月分から未納 / 月から供給停止	ライフラインが使える状況が確認する	
	家賃・地代	支払い状況 立ち退き予定 立ち退き後の行き先	未納・完納 なし・あり なし・あり	月分家賃から未納 年 月 日まで	立ち退きを迫られていないか確認する	
	ローン等の返済	借入先 借入金残高 返済状況 借入原因	現在の負債の状況を確認する 負債の原因が何であったか確認する			
	自己破産	債務整理ができない理由 法定手続きの状況 過去の自己破産歴 過去の自己破産の原因	自己破産しなければ債務整理できない状況を確認する 法定手続きの状況(本人の意志なども含む)を確認する 過去にも同様な状況に陥ったことがあるかを確認する			
	年金担保の状況	なし・現在ある(借入額 円、返済完了予定 年 月)・過去にあった(借入額 円)				
	本人の現状認識と将来展望等	負債を抱えた現状に対して、本人がどのような認識を持ち、今後どのような生活を立て直していく考えか等を確認する				
		支援が必要な点・支援上の留意点	支援担当者の所見などを記入する。			

一般扶養・資産シート No.

一般的事項のアセスメントシート << 生活状況シート 記載要領 >>

平成〇年〇月〇日～〇年〇月〇日現在 記入者

日常生活の状況	生活習慣	項目	出勤日		休日			
		起床時間 食事 家事 帰宅時間 就寝時間	・毎日の生活習慣に支障がないか確認する。					
	室内状況	室内全体の整理整頓 台所 その他	・生活習慣同様に居室内の状況を確認する。 ・最低生活を維持するために必要な家具、電気製品が揃っているか確認する。					
	日中の過ごし方	家事	項目	健康状態からの判断	自分でしているか	誰かにしてもらっているか	生活に支障がある点	
			洗濯 掃除 料理 買い物	・家事の状況を確認する。				
			必要性の有無	項目	育児・介護の程度	生活に支障がある点		
	他の世帯員の育児、介護	必要ない・必要がある	移動 食事 排泄 入浴 着脱衣	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単身世帯であれば記載は不要。</li> <li>・2人以上世帯の場合、他の世帯員の世話をする必要があるか確認する。</li> <li>・他の世帯員の世話が必要な場合、生活に支障をきたしていないか確認する。</li> <li>・育児や介護により、生活に支障をきたしている場合、その内容を確認する。</li> </ul>				
			ストレスを感じていない・感じている	理由	・他の世帯員の育児、介護により日頃ストレスを感じている場合、その理由を確認する。			
	生活費のやり繰り	できている・できていない	理由	・生活費のやり繰りができていない場合、その理由を確認する。				
	アルコール・薬物依存等	課題なし・課題あり	状況	・課題があればその状況を確認する。				
本人の現状認識と将来展望	・日常生活における本人の現状認識と、今後、どのような生活を送ろうと考えているのか確認する。							
支援が必要な点・支援上の留意点	・支援担当者の所見などを記入する。							
社会生活の状況	日中の過ごし方	定期的に出かける場所がある	地域の公共施設 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活の状況について把握する。</li> <li>・必要に応じ、以下の点についても留意し記載。 ア. 主が高齢者の場合は、キーパーソンとなる人(近隣の知人・身内・民生委員・町内会の役員等)の有無及び地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、介護予防事業所、介護サービス事業所等との関わり</li> <li>イ. 主が障害者の場合、障害福祉担当課、保健センター、保健所等との関わり</li> <li>ウ. 児童の場合は、児童福祉担当課、学校、子ども家庭センター等との関わり</li> </ul>				
		交友関係	一緒に出かける友人がいる 連絡を取り合う友人がいる					
		近隣住民との関係	地域の行事への参加 会話 挨拶する頻度 トラブルなど					
	本人の現状認識と将来展望	・社会生活における本人の現状認識と、今後、どのような生活を送ろうと考えているのか確認する。						
支援が必要な点・支援上の留意点	・支援担当者の所見などを記入する。							

一般生活状況シート No.



一般的事項アセスメントシート << 健康管理シート 記載要領 >>

平成〇年〇月〇日～〇年〇月〇日現在 記入者

疾病の状況	健康状態	対象者の意識	健康上の不安なし 健康上の不安・課題あり( )	CW見立て	健康上の課題なし 健康上の課題あり( )	
	現在治療中の病気	無 ・ 有	病名		通院頻度	
	通院医療機関	病院 ・ 医院 ・ 診療所 ( 科 )			週、月 回 ・ 不定期	
	自覚症状	具体的な症状	・ 支援対象者の申し出による症状を確認する			
		対象者の認識	就労することに問題ない ・ 就労はできるが職種、勤務時間等で制限される ・ 就労できない 就労することに制限がある場合は、その理由 ・ 支援対象者の申し出による理由を確認する			
	主治医の意見	病名	(担当医師： 病院 ・ 医院 ・ 診療所 Dr)			
		通院頻度	週、月 回 ・ 不定期 ・ 薬の処方 ・ 経過観察 ・ 現在通院していない			
		現在の治療	症状・治療内容			
			処方している薬の内容・服薬回数			
			今後の治療期間・治癒の見込			
主治医から見た対象者の病気・症状に対する理解	受療中の態度					
本人の現状認識と将来展望	理解している ・ 病気を過小に理解している ・ 病気を過大に理解している ・ その他 ( ) ・ 主治医の意見を確認する					
支援が必要な点・支援上の留意点	・ 支援対象者の本当の気持ちを引き出し、本人の認識を確認する。					
入院時の状況	入院時の病状（現在）					
	入院前の生活状況	・ 長期入院中の場合等、特に支援を要すると考えられる場合に記入する				
	過去の入院歴					
本人の現状認識と将来展望	・ 支援対象者の本当の気持ちを引き出し、本人の認識を確認する					
支援が必要な点・支援上の留意点	・ 支援担当者の所見などを記入する					

一般  
健康管理シート  
No.

一般的事項のアセスメントシート < 基礎シート 記載例 >

平成〇年〇月〇日現在 記入者

氏名	〇〇 〇〇	性別	<input checked="" type="radio"/> 男 ・ 女	生年月日	S●●年●●月●●日(50歳)	担当者	△△ケースワーカー
住所	●●市●●町●●アハート●●●●号室					電話	( ) -
						携帯電話	(090) -
世帯類型	高齢・母子・障害(偏病)・その他	保護開始年月日 平成18年10月5日 (過去の保護受給歴 なし)				介護・育児を要する世帯員の有無	<input checked="" type="radio"/> 有
世帯員の状況	続柄	氏名	性別	生年月日(年齢)	職業・学校等	健康状態	特記事項(世帯員の相互関係等)
		(単身世帯)					
生活状況	生活最近の状況	半年前から仕事をしていない。それまでは、警備会社の交通誘導員として働いていたが、なかなか仕事を回してもらえないことを理由に、会社側と口論となり自主退社した。働いていたときは、1カ月の就労日数が10日程度しかなく、その給料だけでは生活することができず、父から仕送りしてもらっていたが、それでも生活費が足りずに借金を繰り返し生活している。働きたいが、何の資格もなく、今の年齢ではなかなかいい仕事先が見つからない。父にはいままでも借金の肩代わりをしてもらっており、これ以上仕送り額を増やしてもらうことはできない。 既に、ガス代が支払えず先月から止められており、自宅で風呂にも入ることができない。更に今月分の家賃も未払いの状況。このままでは、電気料金や水道料金も支払えなくなる可能性がある。					
	過去の生活状況	・高校卒業後、●●市内の電化製品の組み立て工場に就職。10年間働くも、離婚後退社しハチンコ店の店員、建設現場の作業員、警備会社の交通誘導の職を転々とし、半年前に失職。 ・22歳で会社の同僚と婚姻。2児(長女、長男)の父となる。 ・本人のギャンブルと借金が原因で28歳時に離婚。子供達は妻が引き取る。子供が幼少の頃は会っていたが、約15年くらい前から音信不通。前妻と子供達は既に転居しており、住所や連絡先を覚えてくれないので、どこに住んでいるのかも知らない。借金は両親、兄、妹の夫が肩代わり。					
住宅	持ち家	家屋・土地の別	名義人	持分	抵当権	面積	固定資産税評価額
		家屋 宅地	なし なし				
	賃貸	家賃額	契約期間	家賃以外の支払い			
	40,000円	H17年4月1日 ~ H 年 月 日	共益費・管理費等 ( ) 住環境 課題なし・課題あり( )				
	契約保証人						
収入状況	収入の種類	月額金額(円)	収入(予定)日	内訳等の詳細			
	稼働収入	なし					
	他法他施策収入 その他の収入	なし 仕送り 10,000円	月末	父から			
就労状況	就労の有無	働いていない ( 年 月 日 から ) ・ 働いている (現在の仕事は 年 月 日 から)					
	就労先	管内・管外 ( 市 ) / 通勤方法 ( 電車・バス・自転車・その他( ) )					
	就労時間	: ~ : まで / 1日 時間、週 日、月 日勤務 / 日勤・夜勤・交代勤務					
	雇用形態	正社員・嘱託・パート・アルバイト・派遣・その他( )					
	社会保険等	なし・健康保険・厚生年金・雇用保険・その他( )					
	仕事の内容						
	特技・資格等	本来、体力には自信があるとのこと。資格はない。					
	仕事をしていない理由	求職活動(週1回ハローワークにて)を行っているが、採用に至らない。					
健康状態	状況	入院 <input checked="" type="radio"/> 在宅					
	治療の有無	未治療 ・ 現在、治療中断中( 年 月頃 から ) ・ 現在、治療中(平成〇〇年 〇月頃 から)					
	未治療、治療中断の場合の理由						
	項目	内容	就労、日常生活で支障がある点、留意する点(本人の訴え及び医師意見等による)				
	偏病	主な病名 医療機関 服薬の状況 自宅からの通院時間	高血圧症、糖尿病 〇〇医院 降圧剤 徒歩20分	いずれも服薬を継続していれば、特段、就労や日常生活に制約はない。 2週間に1回通院し、薬を処方してもらっている。通院状況の問題はない。 主治医から毎日服薬するよう指示され、指示どおり服薬している。 自宅から最も近い医療機関			
障害等	障害者手帳 介護認定						
民生委員との関わりの状況	<input checked="" type="radio"/> 有(民生委員名: 〇〇 委員 関わりの状況: 話す機会は少ない )						
関係機関との関わりの状況	<input checked="" type="radio"/> 有(関係機関・担当者等 )						
策他法他況	種類	なし					
	内容						
備考							

一般基礎シート No.

一般的事項のアセスメントシート << 扶養・資産シート 記載例 >>

平成〇年〇月〇日～〇年〇月〇日現在 記入者

主な扶養義務者との関係	関係性	氏名	続柄	交流の内容	交流の程度	
	交流有	●● △△、〇●	両親	・面会をする(定期・不定期) ・電話で話す(定期・不定期) ・仕送り状況(無・定期・不定期)	交流頻度(1週間に 回・1か月に 回・1年間に 2回) 仕送り内容(月平均 10,000円 食料品・日常生活用品) その他の支援(借金を一部肩代わり)	
	交流無	●● 〇〇、〇△ ●● △〇	子 兄	交流が途絶えた時期 (15年前から) 交流が途絶えた時期 (10年前から)	原因 前妻と一緒に生活しており、転居に伴い音信不通。 原因 過去に借金の肩代わりをしてもらったことから、会うことや連絡することを拒否されている	
	本人の現状認識と将来の展望等	子供達には申し訳ないと思っている。会いたいと思うが、今更、会わせる顔がない。兄や妹達にも迷惑をかけたと思っている。両親だけは助けてくれるが、これ以上、身内に迷惑はかけられないし、相手もしてくれないと思う。(本人談)				
支援が必要な点・支援上の留意点	・年金で生活する両親については、これ以上の経済的援助は困難だが、交流が今後も途絶えることがないように見守る。 ・2人の子については、主の会いたいという思いもあり、将来的に少しでも繋がりを持てるよう、何らかの支援を今後検討					
保有資産の状況	手持ち金	なし・ある(5,000円) ※調査時点:平成18年10月				
	預貯金	なし・ある(789円) ※調査時点:平成18年10月				
	生命保険	契約内容 保険の種類 保障内容 月額保険料 解約返戻金	保険社名(県民共済)、契約者(本人)、被保険者(本人)、受取人(本人、死亡時は父) / 契約なし 死亡時・高度障害時保障、入院時医療保障 死亡、高度障害 200万円、入院給付金 1日 2,000円、通院給付金 1日 1,000円、その他 なし(既に全納) あり(2,000円) 円 ※調査時点:			
	山林、農地等 (居宅以外の不動産)	なし・あり / 名目、面積 坪・㎡、固定資産税評価額 円)				
	その他資産					
	支援が必要な点・支援上の留意点					
負債の状況	電気・ガス・水道	未納の公共料金 なし・電気・ガス・上下水道	供給停止 なし・電気・ガス・水道	未納、供給停止の状況 ●月分から未納 / ●月から供給停止		
	家賃・地代	支払い状況 立ち退き予定 立ち退き後の行き先	未納・完納 なし・あり なし・あり	●月分家賃から未納 年 月 日まで		
	ローン等の返済	借入先 借入金残高 返済状況 借入原因	●●クレジット、〇〇ローン 合計200万円 月2万円の返済約束だが、保護開始後滞納(金利は20%以上) 保護開始以前、生活費に充てるため、返済のあてもなく借り入れ			
	自己破産	債務整理ができない理由 法定手続きの状況 過去の自己破産歴 過去の自己破産の原因	返済は困難な状況で、法的手続きを検討中 未着手(来月の市主催無料法律相談へ行く予定) なし なし			
	年金担保の状況	なし・現在ある(借入額 円、返済完了予定 年 月)・過去にあった(借入額 円)				
	本人の現状認識と将来展望等	・昔、借金を苦しんだが、またキャンブルのために借金を繰り返してしまっ。借金は返さないといけないと思うが、とても無理なのでできれば自己破産の手続きを取りたい。そうすれば、借金を繰り返すようなことは2度としない。(本人談)				
	支援が必要な点・支援上の留意点	・債務整理支援プログラムの参加に同意しており、現在プログラムのフローに基づき、債務整理管理官等5名で、市主催無料法律相談や日本司法支援センターへの予約連絡を支援している状況。 ・債務整理の支援にあわせて、過去にキャンブル等による被害を受ける傾向があることから、金銭管理能力向上支援プログラムへの参加を促し、現在等計簿作成等に取り組んでいる。				

一般扶養・資産シート No.

一般的事項のアセスメントシート 《 生活状況シート 記載例 》

平成〇年〇月〇日～〇年〇月〇日現在 記入者

生活習慣	項目	出勤日		休日		
	起床時間 食事 家事 帰宅時間 就寝時間			●時頃 1日2食(昼と夜)、弁当やインスタント食品が中心 洗濯、掃除、買い物(不定期) 家にいることが多い ●時頃		
室内状況	室内全体の整理整頓 台所 その他	特に散らかっている様子はなく、ゴミもたまっている様子はない。 インスタント食品が大量にあり、食器や鍋等が使ったままというようなことはない。 家財道具や電化製品は最低限度揃っている。				
日常生活の状況	家事	項目	健康状態からの判断	自分でしているか	誰かにしてもらっているか	生活に支障がある点
		洗濯	できる・できない	している・していない	はい( )・いいえ	なし
		掃除	できる・できない	している・していない	はい( )・いいえ	なし
		料理	できる・できない	している・していない	はい( )・いいえ	栄養管理に不安がある
	買い物	できる・できない	している・していない	はい( )・いいえ	なし	
	日中の過ごし方	他の世帯員の育児、介護	必要性の有無	項目	育児・介護の程度	生活に支障がある点
			必要ない・必要がある	移動 食事 排泄 入浴 着脱衣		
			ストレスを感じていない・感じている	理由		
	生活費のやり繰り	できている・できていない	理由			
	アルコール・薬物依存等	課題なし・課題あり	状況			
本人の現状認識と将来展望	一人暮らしをしていると、料理して食事しようとは思わない。日常生活で困っていることはない。					
支援が必要な点・支援上の留意点	・家にいることが多く、運動不足が懸念される。就労先が見つかるまで、1日1回はジョギングなど外に出るよう助言中。 ・インスタント食品が中心の食生活のため、栄養バランスにも偏りがあり、健康状態からも野菜などのビタミンをなるべく摂取するよう助言中。					
社会生活の状況	日中の過ごし方	定期的に出かける場所がある	地域の公共施設 その他	図書館 レンタルビデオショップ、〇〇スーパー		
		交友関係	一緒に出かける友人がいる 連絡を取り合う友人がいる	いない いない		
	近隣住民との関係	地域の行事への参加	していない			
		会話	ほとんどしない			
		挨拶する頻度	ほとんどしない			
近隣住民とのトラブル	ない					
本人の現状認識と将来展望	日中買い物に出かけると、公園や駅のベンチに自分と同じくらいの年齢の人がいるのを見る。屋間から何もすることがないのだと思うと、周囲から自分も同じように見られているんだらうかと急に不安になる。仕事に就けば、肩身の狭い思いはせず、もっと社会に出て行けると思う。					
支援が必要な点・支援上の留意点	本人も現在の生活に不安を感じており、社会との繋がりを保つ上でも就労への支援が必要					

一般生活状況シート No.